

# こうりん



来る平成 23(2011)年には、  
『浄土宗宗祖法然上人 800 年大遠忌』を迎えます。

## 内 容

- ・ 法然上人御忌法要のご案内
- ・ 五重相伝会 受者感想文
- ・ アウン
- ・ 天地開闢（ホツマツタエ）
- ・ 作ってみよう精進料理
- ・ 年賀状作品展
- ・ お知らせ

新年明けましておめでとございます。昨年には自然災害が多発して、未曾有の大震災で多くの犠牲者が出ました。人々の不安も大きくなった年でした。本当の事が知りたいというのは私だけの願いではないと思います。

「日本書紀」「古事記」より古くに書かれた「ホツマツタエ」「ミカサフミ」といった書物に出会うことができました。

「旧約聖書」や「ウパニシャッド」と同時期にかかれた「ホツマ」を学ぶ事によって、日本の真の姿はどうなのか？さぐっていききたいと思っています。

磯城島の 日本国は 言霊の幸はふ国ぞ ま幸くありそ（柿本人麻呂）

檀信徒各位

御忌法要の御案内

聖名、時下厳冬の候、ご尊家ご一統様ますますご清祥の事と存じ、お慶び申し上げます。

お正月の様々な行事も早や終わり、平常の生活がもどってまいりました。

例年 1 月の「御忌法要」を迎えることになりました。

日本のお念佛の元祖、浄土宗開祖「法然上人」の第 794 回忌のお祥月命日にあたる 1 月 25 日の法要です。

浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記の通り勤めます。

ご多忙の折り柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合せご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。 合 掌

平成 17 年上浣

無量寺住職 堤 俊翁 拝

※期 日 1 月 25 日 (火) 午後 1 時よりご回向、布教

※布教師 総本山知恩院布教師・島根県向西寺住職

山上 光俊 上人

※ご回向料 1 霊につき金 1,000 円以上御志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

ご本尊様のお供え、お花代等にさせて戴きます。

お願い

墓地へご参詣のみなさまへ 枯れたお花などは墓地奥の焼却炉

そばの塵かごに捨てて下さい。

納骨堂へご参詣の皆様へ

お供えはお持ち帰り下さい。

## 五重相伝感想文

### ☆五重相伝会を受けて

高木一美

五重相伝会を受けて、はやひと月を迎えました。朝夕のつとめを済ませると心身が清々しい気持ちでいっぱいでございます。

一日目の不安。二日目。三日目。四日目。五日目の不安がだんだんとやわらぎ無事に五重相伝会の儀式を受けた時の気持は、阿弥陀如来様、のおかげ 勸誡師様、伝燈師様、教授師様、和尚様方々の心優しいおかげだと深く感謝致し感激でいっぱいでした。

尊い戒名を頂き感謝でいっぱいでございます。

初日の調読を受ける時の気持は緊張して道場へ向う途中無事に行が出来たのだろうかと案じ心配でした。和尚様の御指導を頂き無事に席に着く事が出来安心致しました。勸誡師様の法話が始まり、いきづまらない人生、と暮らしの中に、阿弥陀如来様のお慈悲を受け、救いの導きは信仰によって教えられ、毎日が、生かされていく心を美しく尊い気持ちで感じ、す

べての（地球上のもの、宇宙のもの）自然を広く観察し、感動する心、心の豊かさ、天地の恵みのありがたさに、感謝して、阿弥陀如来様を尊び、素直に生きることを拝聴し感銘致しました。

日常『南無阿弥陀仏』を念ずる心、このような愚かな私でも、南無阿弥陀仏と称えれば、往生するぞと思いとりて、一点の疑いもなく、ただひたすら 南無阿弥陀仏と称える、という五重相伝を受けてありがたい気持ちでいっぱいです。

### ☆五重相伝参加の感想

中原 孝高

平成十六年四月二十六日、今日は自分の肝臓癌手術の為久留米大病院に入院する日である。

朝六時起床、顔を洗って深呼吸数回、それから座敷（仏間）で間違いだらけの読経、念佛約十五分間、今日の入院は四月二十三日入院を二十六日にした事もあって朝食ぬきで午前九時までに入院する。私の肝臓癌手術日は四月三十日午前八時より始まる事は既に決まっている。今日から癌摘出手術の為の検査が続くだろう。これまでの経過を振り返って見ると、自分にとって四月二十日～二十四日の五重相伝参加が最重要として総ての流れの中心的位置づけになった事に気づかず

いられない。二月二日癌である事が判明摘出手術が必要とされた。この事を知ってからは一日でも早く肝臓癌手術を受けたいと思うのは私だけではあるまい。今回の五重相伝参加は諦めて早く断って置いたが迷惑ならぬのではないか、その様な事を家内と話し合ったりもした。しかし、不参加という断りの言葉をお寺にする事をなぜかためらい一日とすぎ、四月十五日となった。夜八時頃大病院より電話、五月六日～八日頃手術四月二十六日入院とされた。この電話を聞いて五重相伝参加を断らずによかった。もし早まって不参加にしてたら理由が何であれ一生後悔しなければならなかった。何十年に一度のチャンスを捨てた事になり（±）思考が（一）思考となりどんどん落ち込んでいただろう。そうでなくても肝臓癌である事が解って八十日、一日がととも長くテレビを観ていてもその事を考へる。手術して見れば手遅れでそのまま縫いふさぐという事例は良く聞く話であり、その事が自分に対する現実の様に思われて苦しいのである。その一番むづかしい時期、二十日～二十四日迄の日々を念佛の世界ですごし有難かった。話を戻しいよいよ四月二十日となる。無量寺第二十三世秀譽俊翁導師五重相伝の初日である。諸々の雑念を捨て早朝より妻と一緒に参加の為無量寺山門をく

ぐる。受付をすませ御導師様に挨拶、私等の参加を笑顔で迎えられて何か心の休まる思いがした。山上勸誡師様の説教を聞いている内に段々精神的落ち着きを取り戻し前回の五重相伝（十四年前）を思い出しながら、今の自分をみつめて見た。前回も大きな約束をしていた。現在は心はみだれ、約束事は何もしていない。念佛さへしていない。今度こそ初心にかえって考え直さねばならない。今回の五重相伝はとてつもなく意義深く人生最後の道場として重く受け止めました。これから先、長い短い解らない浄土への道をまよわず、静かに歩いて行くつもりで居ます。以上

追伸 四月三十日の肝臓癌手術は成功すると共に胆嚢も一緒に摘出その後順調に快復し術後二週間で退院体力回復につとめて居ます。





吽  
形



阿  
形

## 阿吽（あうん）

阿吽の呼吸とよく言います。仲間と息が合っているときなどによく使います。「アウン」はサンスクリット（梵語）で「ア・ウム」のことで、「阿」は十二母音の初音での口を開くと最初に出る音です。すべての文字、すべての音声は「ア」を

本源とするところから、密教では「阿」を一切が発生する理体とします。

「吽」は、口を閉じた最後の音とされ、終結する智徳をあらわすとされます。

「阿吽」の二字はあらゆる存在の発生と終結を意味します。

赤ちゃんが産声をあげた時の音が「ア」で、人が亡くなる時の最後の息が「ウン」ですから、人生の最初から最後までと言ってもいいでしょう。

真言宗の開祖、空海は「声字実相義」でつぎのように述べています。

「宇宙を構成する地・水・火・風・空の五大には、みな響きがある。

また地獄から佛界にいたるすべての世界には言語がある。

さらに、人体内部の呼吸や外部の風が、わずかに発動すれば、かならず響きが起こるが、これを名づけて「声」という。響きはかならず声に原因する。

声はすなわち響きの本源である。

声が発動してなにも起こらないということはない。

かならず物の「名」をあらわすのだ。

これを名づけて「字」というこの「名」はかならず物の実体を作りだす。

それが万有の真相なのである。」

参考文献 「ホツマの宇宙観」 鳥居 礼著 新泉社

天地開闢	アメミロヤ	天地人も
分からざるに	初の一息	東登りて
動くとき	空(大壺)に巡り	巡れる中の
西下り	裂けて陰陽なる	軽く巡りて
アワウビの	陰は中濁り	水埴分かれ
御柱に	風生む風も	陽は三つとなり
陽は清く	ヲセの宗元	ヰモの源
天となり	空風火と	五つ交わりて
地となる	アメナカヌシの	ホツマツタエ
陽の空		
火を生みて		
陰は二つ		
日と丸め		
月と凝り		
水埴の		
人となる		
神はこれ		

### 意 訳

天地も人もまだ生まれる前、そこにはアメノミロヤだけが存在していた。アメミロヤの(初の一息)が発動すると、それはまず東から登りはじめて西に下って、そこに大きな壺(空)が形成された。天地のもととなる(アワウビ)もグルグルと巡り、その中に出現した(天の御柱)から陰陽が別れてたのである。

陽は清らかで軽く天となり、陰は重く濁っていたので地泥となった。やがて陰性の地泥から水と埴が分離し、陽性の空からは風が生まれ、風は火を生んだ。

したがって、陽の性質の元素は三種、陰の性質の元素は二つとなり、ここに宇宙の五大元素が分離出現したのである。

ヲセの宗(胸)元の火をまるめ日を造った。

やがて、これらの空・風・火・水・埴の五元素が交わり、地上の人が誕生したのである。アメノミナカヌシがこれである。

## 作ってみよう精進料理

### 【えびいも饅頭】

{浄土宗かるな} より



材 料		
海老芋	4本	<煮出汁>
片栗粉	適量	出汁 900cc
お米	少量	淡口醤油・塩・酒 各少々
片栗粉	適量	さとう 250g
植物油	適量	<揚げ出汁>
ぎんなん	4粒	出汁 各100cc
百合根	適量	おみりん 10cc
なめたけ	適量	淡口醤油 10cc

- ### 作り方
1. 大きめの鍋にたっぷりの水とお米を入れ、皮をむいた海老芋を柔らかくなるまで茹でる。
  2. 茹であがったら水にさらし、煮出汁で炊く。
  3. 炊きあがったら熱いまま水気をとり、裏ごしにかけて冷ます。
  4. 手のひらに60gくらいの3.をのせ、適当な大きさに切ったぎんなん、百合根、なめたけなどと饅頭にし、片栗粉をつけて油で揚げる。
  5. 器に盛り、揚げ出汁をかけ、木の芽をそえて出来上がり。

# 年賀状作品展

すてきな年賀状ありがとうございました。カラーでないのが 残念！



## だるまさん

年間 5 回の法要（御忌、彼岸、施餓鬼、十夜）の法話、念佛講、14 日会等に参加された方に渡しています。  
 100 だるま以上集められた方には無条件で、お戒名に院号をお贈りします。お札に名前を書いて保管しておいて下さい。



### 使用済みのカードはありますか？

使用済みのプリペイドカード（テレフォンカード、ハイウェイカードなど）がありましたら、お寺へ御持参下さい。国際協力事業団（JICA）を通じて、世界中の子供達の医薬品や医療器具などを購入するための資金を得る活動に役立てていただきます。  
 世界中のカード収集家に販売してその収益が当てられます。（12 月末までに 210 枚寄せて頂きました。FM 福岡に送らせて頂きました。）

香林山 冷智院 無量寺  
 機関誌 こうりん  
 第 37 号 平成 17 年 1 月 1 日発行

〒 830-0044 福岡県久留米市本町 8-4  
 TEL 0942-32-3010 FAX0942-32-2701  
 郵便振替口座 01750-7-16114  
 URL <http://www.muryoji.net>  
 E-mail [info@muryoji.net](mailto:info@muryoji.net)